

科目名	実践基盤看護学演習Ⅱ Practice foundation Nursing SeminarⅡ		担当教員 (研究室番号)	未定 灘波 浩子 (204) 鈴木 聡美 (103)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目		選択 区分	コース 必修	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
科目目的	効果的な看護ケアを実施・創造していくために、看護実践におけるクライアントへの効果を究明することの意義およびその課題について探求する。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追及していける研究能力を身につけている。										
	関連するDP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。										
到達目標	1. 時代の要請に合わせた看護援助を創造することの意義について考察することができる。 2. 看護援助や看護技術を評価することの意義と方法を理解し、看護実践・看護研究への活用について考察することができる。 3. 看護援助・技術に関する最新の動向から、ケアについて明らかにすべき課題を探求することができる。											
成績評価方法(基準)	クラスへの参加状況(40%)・プレゼンテーション(30%)・課題レポート(30%)による総合評価。											
教科書	必要時提示する。											
参考書等	必要時提示する。											
受講者へのメッセージ	課題を探究しようとする高い志を持ち、根気よく文献と向き合って下さい。またディスカッションの能力を高めるための自己課題を常に意識して下さい。											
備考	授業は事前学習の成果をもとに進めます。 臨地教育者コースの学生については、基礎看護方法Ⅱの指定された単元への参加と、指示された視点でまとめたレポートの提出により、(★)の学習とします。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	オリエンテーション 現代において看護技術の開発が求められる分野①				対象者の自立の促進を重視した看護ケア(身体活動)の必要性について、保健・医療・福祉の現状から理解する。				未定			
2回	現代において看護技術の開発が求められる分野②				対象者の自立の促進を重視した看護ケア(身体活動)の実際について、文献検討を基に知る。				未定			
3回	現代において看護技術の開発が求められる分野③				対象者の自立の促進を重視した看護ケア(身体活動)開発の必要性について、ディスカッションする。				未定			
4回	看護援助・技術の分析に関する研究との視点				看護援助・技術に関する研究論文を通して、看護技術が対象者に及ぼす影響について検証する意義と方法を学ぶ。				未定			
5回★	看護援助や看護技術の科学的な裏付けを探求した文献の選定と論文クリティーク①				看護援助・看護技術の中で、看護の効果として科学的な裏付けがなされた研究の概要、およびその研究課題について整理する。				灘波			
6回★	看護援助や看護技術の科学的な裏付けを探求した文献の選定と論文クリティーク②				看護援助・看護技術の中で、看護の効果として科学的な裏付けがなされた研究の概要、およびその研究課題について論考する。				灘波			
7回★	看護援助や看護技術の科学的な裏付けを探求した文献の選定と論文クリティーク③				看護援助・看護技術の中で、看護の効果として科学的な裏付けがなされた研究の概要、およびその研究課題について整理する。				鈴木			
8回★	看護援助や看護技術の科学的な裏付けを探求した文献の選定と論文クリティーク④				看護援助・看護技術の中で、看護の効果として科学的な裏付けがなされた研究の概要、およびその研究課題について論考する。				鈴木			
9回★	看護援助・技術を「測る」ための実験①				看護援助・技術が対象者や看護者に与える影響を明らかにするための実験方法について学ぶ。				未定			
10回★	看護援助・技術を「測る」ための実験②				これまでの臨床経験・学習をふまえ、提示された看護援助・技術について、対象者に与える影響や効果を示すエビデンスを得るための実験計画を立てる。				未定			
11回★	看護援助・技術を「測る」ための実験③				これまでの臨床経験・学習をふまえ、提示された看護援助・技術について、対象者に与える影響や効果を示すエビデンスを得るための予備実験を行う。				未定			
12回★	看護援助・技術を「測る」ための実験④				これまでの臨床経験・学習をふまえ、提示された看護援助・技術について、対象者に与える影響や効果を示すエビデンスを得るための実験を行う。				未定			
13回★	看護援助・技術を「測る」ための実験⑤				実験で得られたデータの分析を行い、看護援助・技術の根拠をエビデンスとして示す。				未定			
14回	看護援助・技術に関する研究課題①				看護援助・技術の「安全性・安楽性」の確立および「自立への支援」に向けた課題についての研究課題を整理する。				未定			
15回	看護援助・技術に関する研究課題②				看護援助・技術の「安全性・安楽性」の確立および「自立への支援」に向けた課題について、看護実践者・研究者として明らかにしていきたい研究課題を整理する。				未定			